



令和8年 5月 8日

校長 富川 麗子

## 授業観察から ～一人ひとりの問いが未来をひらく～

## 前文

新緑の美しい季節となりました。九段中等教育学校に着任して、早いもので一か月が過ぎました。この間、始業式、入学式、保護者会、学校行事、そして日々の授業を通して、本校の生徒たちの真っすぐな眼差しと、教職員の誠実で熱意ある指導に触れてまいりました。特に、5月1日までに60名以上の授業観察を行い、各教室において、生徒が自ら思考し、他者と対話し、学びを深める確かな教育活動が展開されていることに深く感銘を受けています。本校生徒・保護者の皆様には、日々の学校生活の様子を改めて共有させていただき、小学生とその保護者の皆様には、本校の温かく知的な学びの空気を感じていただければ幸いです。

## 対話から始まる学び——教室に広がる「考える楽しさ」

本校教員の授業を見ていて強く感じるのは、教員が一方向的に知識を伝達するのではなく、生徒の思考の過程を丁寧に見取りながら、学びを深めているということです。ある授業では、写真や映像、音声資料を活用し、言葉の背景にある文化や歴史へ生徒の関心を導いていました。別の授業では、AI から得た情報を出発点としながら、「その根拠は何か」「異なる見方はないか」と問い返し、友達同士で意見を交わしていました。体育の授業では、動画による記録をもとに活動を振り返り、改善点を共有しようとする姿が見られました。こうした授業に共通しているのは、生徒を学習活動の中心に置き、知識の理解に加えて、判断力・表現力・協働力を育てようとする授業設計です。本校の教員による授業は、単に「分かる」だけでなく、「考えを深める」「他者と学び合う」「次の課題を見出す」という経験を積み重ねる授業展開が工夫されています。授業観察を通して、本校の教室には、教員からの問いに対して、自ら考え、仲間と学び、自分の力を少しずつ伸ばしていける環境があることを感じています。

## 九段探究プラン——「なぜだろう」から未来へ向かう力を育てる

4月号では、私自身の高校時代の経験を通して、「探究」についてお伝えしました。探究とは、与えられた答えを覚えるだけの学びではありません。自分で問いを見つけ、調べ、考え、仲間と協働し、時には失敗しながら、よりよい解決を探し続ける学びです。本校が大切にしている九段探究プランは、このような学びの姿勢を、6年間一貫の中等教育学校の強みを生かして、段階的に育てていくことを教育の柱の一つとしています。授業観察の中でも、探究の芽は多くの場面で見られました。理科の授業では、抽象的な概念を概要説明シート等に構造化し、友達のまとめ方と比較しながら理解を深めていました。社会の授業では、現代社会の変化について AI も活用しながら多角的に

捉え、課題と解決策を考えていました。

「探究座談会」では、6年生が自らの取り組みを4・5年生に紹介する機会となっていますが、答えのない問いに向き合い、自ら調査し、表現し、社会とのつながりを考える学びを進めていることが伺えました。探究は、生徒が自分の人生と社会を結び付けて考える知的な営みであるとともに、探究を行っていく中で、データの分析には統計の知識が必要であること、自然現象の探究には理科の知識や技能が必要であることなど、教科の学習にも前向きに取り組むこととなります。

このように、探究、教科の学習、キャリアデザインを循環し、思考力・判断力・表現力を高め進路を実現していきます。小学生の皆さんにとって、「探究」という言葉は少し難しく感じるかもしれませんが、しかし、身近な「どうしてだろう」「もっと知りたい」という気持ちこそが、探究の出発点です。本校では、その小さな問いを大切に育て、未来につながる学びへと広げていきます。

## 教育 DX と生成 AI —— 新しい道具を、人間らしい学びのために使う

本校では、一人1台の ICT 端末やクラウド環境を日常的に活用し、学びの可能性を広げています。資料の配布、意見の共有、写真や動画による記録、友達の考えの参照、調査内容の整理などが自然に行われることで、教室の中には多方向のやり取りが生まれています。これは単なる機器の活用ではなく、生徒一人ひとりの考えを可視化し、学級全体で学びを共有するための教育的基盤です。また、本校では生成 AI の活用にも取り組んでいます。生成 AI は、分からないことを丁寧に説明したり、考えを整理したり、異なる立場からの見方を示したりすることができます。しかし、私たちが大切にしているのは、AI に答えを任せることではありません。AI の回答を比較し、根拠を確かめ、自分の言葉で考え直すことです。AI 時代に必要なのは、答えを早く導き出す力だけではなく、何を問うべきかを見定める力、情報を吟味する力、そして人と協働して価値を創造する力です。本校では、技術を目的化するのではなく、生徒の思考を深め、表現を豊かにし、人と人との学び合いを支える道具として活用しています。

## 千代田区という学びの舞台 —— 地域と社会に開かれた学校として

九段中等教育学校は、千代田区という歴史、文化、行政、経済、教育が重なり合う地域に位置しています。この立地は、単なる利便性にとどまりません。地域の歴史や文化施設、大学、企業、行政、多様な人々との出会いは、生徒たちの学びを社会へ開く大切な教育資源です。本校の教育目標である「豊かな心」「知の創造」「未来貢献」は、学校の中だけで完結するものではありません。豊かな心は、仲間や地域の人々との関わりの中で育ちます。知の創造は、教科の学びと社会の課題が結びついたときに深まります。未来貢献は、自分の学びが誰かの役に立つかもしれないという実感から始まります。本校の生徒の皆さんには、自分たちの学びが地域や社会とつながっていることに誇りをもってほしいと思います。

## あとがき

小学生の皆さん、保護者の皆様には、ぜひ一度、本校にお越しいただきたいと思います。この「校長室だより」だけでは伝えきれない、生徒たちの表情、授業中の対話、校舎の落ち着いた空気、先生方の丁寧な指導があります。学校説明会や学校公開では、本校生徒が日々どのように学び、どのように成長しているのかを、できる限り具体的にお伝えしてまいります。どうぞ、九段中等教育学校の雰囲気を感じにいらしてください。皆様との出会いを、心より楽しみにしております。

